

令和6年11月29日（金）に、『第22回 いっそう元気！東近江』を開催しました。前回のワールドカフェ形式の懇談会を経て、3つのテーマでプロジェクトをスタート。当日は各プロジェクトに分かれて、これから取り組みたいことやできそうなこと、今後のスケジュールなどについて、意見交換をしました！



1 高齢男性の“はたらく”を通した居場所づくりプロジェクト



❖ 高齢男性が出やすい場所とは？

- ・男性は集まって話すよりも、役割があり、活躍できる場があると参加しやすい。
- ・仕事を退職され、一から何かを始めるのはハードルが高い。これまで培ってきたことや、自分の得意なことを活かせる場があると良い。
- ・その場に参加している顔見知りの男性から声かけがあれば、参加への一歩を踏み出しやすそう。

❖ “はたらく” = 多様な対価がある

- ・何か役割があり、少しでも何かの対価があると参加しやすい。
- ・“はたらく”の中には、ボランティア活動も含まれる。無償でも目に見えない対価がもらえる活動がボランティア。“対価”にも様々ある。
- ・無償ボランティアに頼るのは限界がある。有償ボランティアとしてお願いをすることで、より専門的なことも頼むことが出来るかもしれない。少しの金銭が発生することで生活の足しになり、その活動に長く関わることにつながるかもしれない。

☆活動（情報）と人をつなぐ、出会いのプラットフォームができるといいな！

2 福祉サービスの利用に対する理解を拓けるプロジェクト

❖ 福祉サービスを利用すると地域とのつながりが薄れる

- ・今は介護等のサービスが必要ない方でも、今後自分たちも利用するかもしれないことや、その人の地域での生活を支えるためにサービスを利用していることへの理解が必要。
- ・サービスを利用すればするほど、地域から孤立してしまう傾向にあることを地域住民と共有し、共通の課題としてとらえられると良い。



❖駐車場問題をきっかけに福祉サービスの理解を拡げる

- ・専門職が利用者宅を訪問する際に起こる“駐車場問題”。
- ・駐車場の問題は高齢者支援だけの課題ではない。障がい者支援や子どもの虐待への対応も同様のことが起こっている。
- ・駐車について警察や本人に許可を得ても、地域住民の理解がなければ苦情につながってしまう。福祉サービスへの理解の不足もあるが、背景には地域の中で自ら困り感を発信できないことや社会的孤立がある。
- ・福祉サービスが必要な住民のためではあるが、対応に困っている支援者支援としても取り組むことができないか。

☆地域へ福祉サービスの理解を拡げるために、第2層協議体メンバーと一緒に進めていけるといいな！

3 多様な専門職の地域デビュープロジェクト



❖“地域デビュー”って何をする？

- ・サロンへ出ていく？地域へ出ていく？
- ・専門職であっても、その地域に住む住民だから、地域で一緒に何かしているというのは本来の姿。しかし、あまり住民と専門職が混ざり合っていない。
- ・“地域デビュー”するにも、その地域や住民、各種団体が何を求めているのか、何をしようとしているのかを知ることから始めたい。

❖地域を舞台に住民と専門職が顔の見える関係を！

- ・地域の方から呼んでももらえると、専門職は参加しやすかったりする。きっかけが大事。
- ・参加できる仕組みづくりや、地域に受け皿ができるとよい。
- ・専門職に「地域へ出たいですか？」と聞いて回るよりも、地域が何を求めているか、どんな地域にしたいかを聞き、そこに専門職を巻き込んでいく。
- ・専門職側が“してあげる”ではなく、双方が楽しめるように考えていけると良い。

☆地域が何を求めているか、どんな地域にしたいと思っているかを知ることから始めよう！

4 今後のいっそう元気！東近江の動き



❖3つのプロジェクト

- ・各プロジェクトに分かれて月1回程度、会議を開催。
- ・2026年2月を目安に各取り組みを進める。

❖いっそう元気！東近江 全体会

- ・各プロジェクトの進捗状況を見て、年3回程度開催。
- ・各プロジェクトの進捗共有や全体で議論したいことを話し合う。